

1. これまでの検討の流れ(A部会/環境部会)

資料1-2

第1回全体会議(平成22年7月29日)

第1回専門部会(平成22年9月9日)

第1回専門部会の主な検討内容

新規テーマの絞り込みについて
部会の名称について
正副部会長の互選 について

第2回専門部会(平成22年10月6日)

第2回専門部会の主な検討内容

審議テーマの具体的な検討について

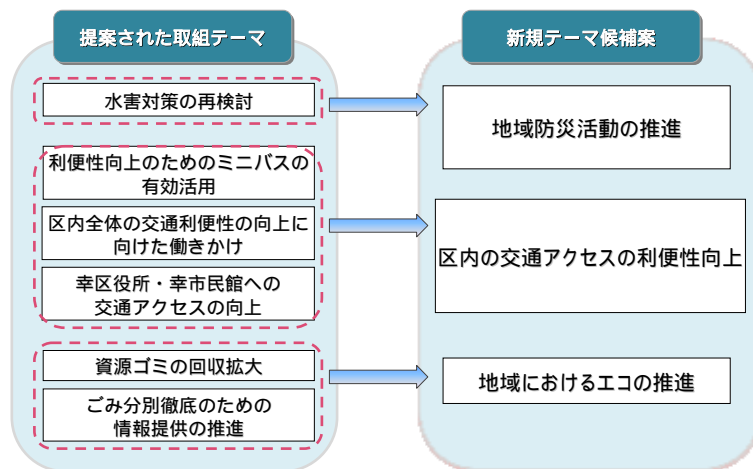
第2回全体会議(平成22年11月10日)

各委員が提案した検討テーマの内容によって、A・Bの2部会に分かれて専門部会を設置し、2回に渡り、取組内容等について検討を行った。

2. 第1回専門部会の検討内容

新規テーマの絞り込み

- ▶ 第1回の全体会のあと、各委員が取組テーマを提案した。この結果を、地域防災活動の推進、区内の交通アクセスの利便性向上、地域におけるエコの推進の3つにまとめ、新規テーマの候補案とした。



2. 第1回専門部会の検討内容

新規テーマの絞り込み

- ▶ また、新規テーマの参考とするため、関連する先進事例を川崎市・他都市に分けて収集・整理し、テーマの絞り込みの議論の資料として活用した。

新規テーマ候補案	先行的な取組の例	
	川崎市内	他都市
地域防災活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップの公表（多摩川、鶴見川） 	<ul style="list-style-type: none"> ・DIG（災害想像力ゲーム） ・自主防災会とボランティア活動を組み合わせた組織づくり（静岡市） ・多様な主体と連携した地域の水害意識啓発への取り組み（葛飾区：NPOア！安全快適街づくり）
区内の交通アクセスの利便性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎市コミュニティ交通導入の支援及び補助金交付による社会実験（川崎市） ・自治会が運営するコミュニティバス（宮前区：野川台団地自治会） 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスの運行は全国各地で実施中。ただし、採算性が課題。
地域におけるエコの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ミックスペーパー（雑かみ）の回収をモデル的に展開中（川崎市：23年3月から全市で実施予定） ・地域が参加したエコ活動とその啓発への取組（中原区） ・エコシティたかつ推進事業（高津区） 	

2. 第1回専門部会の検討内容(A部会/環境部会)

(参考：先行的な取組例の一部)

- ▶ 川崎市では、現在、モデル事業として、一部地域を対象としたミックスペーパーの回収を実施している。
- ▶ この事業は、平成23年3月から全市で実施する予定となっている。
- ▶ 現在A部会（環境部会）で検討している新規テーマは、この取組と関連するものである。

表. 市内におけるモデル実施地域一覧

幸区			中原区		
月	河原町団地1, 3, 12~15号棟		月	井田三舞町	
火	遠藤町	榎原町	井田山町		
	河原町	神明町1, 2丁目	小杉陣屋町		
水	河原町団地		上丸子天神町		
	2, 4~9号棟	戸手本町	下沼部		
	小倉	1, 2丁目	宮内		
	裏小倉		金	末月伊勢町	
			土	末月住吉町	
				下小田中5, 6丁目	
川崎区			高津区		
月	江川1, 2丁目	殿町1~3丁目	本	森ヶ丘	
火	塩浜1丁目	日ノ出1, 2丁目	土	宿戸	
	田町1, 2丁目		月	高野区	
木	浅田1~4丁目		月	島崎	
	小田4丁目		木	多摩区	
金	京町3丁目		水	島麓	
	浅田1, 2丁目		水	中野島多摩川住宅	
	京町1, 2丁目		金	生田	
	下菜木			森生区	
土	大島1丁目	渡田東町	火	片平	南黒川
	大島上町			黒川	
	渡田1~4丁目			はるむ野	

2. 第1回専門部会の検討内容

新規テーマの絞り込み

- ▶ 各委員の提案と、それに関連した先行的取り組みの事例を組み合わせ、部会において議論する内容の例として事務局がまとめた案を元に議論を行った。

新規テーマ候補案	部会において議論する内容の例（事務局案）
地域防災活動の推進	ハザードマップ等を活用し、水害の危険性を啓発する様々な活動を展開する。 自主防災組織づくり 静岡市の事例 災害時の状態を疑似体験出来る講習を行い、水害に備える (着衣による水泳、ゴムボートの操縦、水没自動車からの脱出等)
区内の交通アクセスの利便性向上	採算性を勘案しつつ、コミュニティバス等の新たなバスルートを検討し、事業者に提案する。 宮前区野川南台地区のように、地域による自主的な運行に向けた取り組みを行う。
地域におけるエコの推進	ゴミ分別徹底のため、より一層の情報提供、啓発活動の展開 ゴミ問題に止まらず、地球規模の課題となっている地球温暖化問題に広げ、幸区の特性を活かした市民ベースでできる温暖化対策について検討し、プロジェクト化を進める(例：エコシティかつ推進事業)。

2. 第1回専門部会の検討内容

(部会における議論の概要と結果)

(主な議論)

- ・ 区内の公共交通アクセスの問題や地域防災の問題と比較すると、環境エコの問題は自分たちの身近なテーマであるように思う。
- ・ 地球温暖化は深刻で複雑な問題であるが、自分たちができることから取組を始める必要がある。
- ・ ゴミの問題については、ゴミ出しのルールを徹底するなど、ゴミを出す人の意識の啓発等が必要である。



(議論の結果)

- ▶ 環境問題をゴミだけでなく、地球温暖化や水害等、幅広いテーマで捉えて審議を進めることとなった。

2. 第1回専門部会の検討内容

部会の名称

- ・部会の審議テーマが決定し、取組の内容が環境エコに関するものであること、部会名は簡潔であることが望ましいとの意見から、部会名は「**環境部会**」とすることとなった。

正副部会長の互選

- ・互選により、正副部会長を決定した。
部会長：君和田委員
副部会長：石原委員



3. 第2回専門部会の検討内容

新規テーマ・継続テーマの具体的取組内容（案）

- ▶ 第1回専門部会終了後、審議テーマ（新規・継続）に関し、各委員が意見を事務局に提出した。この結果とこれまでの議論を事務局が整理し、具体的な取組内容（案）として提示したものを元に議論を行った。

新規テーマ(案): 地域におけるエコ・環境の推進

具体的な取組内容（案）

ゴミの分別を区民に徹底してもらうため、より一層の情報提供、啓発活動の展開

- ・毎日のゴミの出し方のルールや分別の必要性を区民にアピール（石野委員）
- ・直接回収された雑かみ等のリサイクルの状況を知り、意識を啓発するための現場視察会を実施（神谷委員）

エコの問題を広く捉え、地球温暖化問題に関連した取組を実施

- ・（幸区及び他区でも実施している）ゴーヤ（緑）のカーテンの一層の普及
- ・月2、3回のノーカーデー（車を使わず、公共交通を使う日）の実施（石原委員）
- ・打ち水の普及

区民・企業・行政が連携した環境展の実施

幸区内における環境への取組みの情報発信（齊藤委員）

3. 第2回専門部会の検討内容

新規テーマ・継続テーマの具体的な取組内容（案）

継続テーマ：自転車の通行マナーを向上させる取り組みの推進

具体的な取組内容（案）

- 大人世代の自転車利用者に意識向上の働きかけを強化する
- ・自転車が引き起こした重大な加害事故の実例を周知し、ルールやマナーに対する意識を啓発する
 - ・自転車購入時等タイミングを捉えた働きかけやインパクトのある広報により、関係機関と連携して啓発を強化する
 - ・小中高校、町会を対象とした交通安全教室の拡充（齊藤委員）
（幸警察交通課・区役所地域振興課と連携。スタントマンを活用した交通安全教育も検討）
- 鹿島田駅周辺の放置自転車対策等の実施

3. 第2回専門部会の検討内容

市担当課からの情報提供

- ▶ 環境部会の新規テーマである、ゴミ・リサイクルに関する市の取組状況等を把握するため、担当課から説明を受け、質疑・意見交換を行った。

（市からの説明）

- ・川崎市には、ミックスペーパーからトイレットペーパーを作る専用工場である三栄レギュレータ東京工場（世界初のゼロエミッション製紙工場）がある。
- ・このおかげで、他都市では回収してもリサイクルできないような質の悪い紙も再利用が可能であり、ミックスペーパーのリサイクルには非常に恵まれた環境。（他都市では、回収はしても、中国等に輸出するに留まる）
- ・課題は、モデル地域での回収率が低いこと。市内全域でいくつかのモデル地域を設定していることから、地域が虫食い状になっており、全体的な広報ができないことも、周知が徹底できない要素である。
- ・全市での展開にあたっては、自治会・小中学校等での説明会を密に実施し、市政だよりなど広報も充実させていく。
- ・家庭の中に、専用の置き場所を作ってもらい、レシートを一般ごみに捨てないようにするなど、各家庭がミックスペーパーリサイクルを習慣化していくことも重要。

3. 第2回専門部会の検討内容

市担当課からの情報提供

(各委員からの質問を受けた対応等について)

- ・市全体への展開にあたっての周知については、広報や回覧等も活用するが、説明会の実施を重視していきたい。実施予定の団体以外でも、要請があれば伺い、説明会を行う。
- ・「ホチキスを取らなくてもよい」など、細かいルールを誤解していることが多い。回収のルールをいかに共有化できるかを重視すべき。既存のマニュアルはわかりにくかったので、わかりやすいマニュアルを作成中である。
- ・ミックスペーパーの回収が進むことによる効果としては、将来的に既存の焼却炉の数を削減できることによる効果が一番大きい。
- ・ミックスペーパーの回収状況については、どれだけ集まったのか、管轄する工場単位で把握することが可能。
- ・ゴミの量は、景気悪化を主要因として過去3年間は減少傾向。特に事業系。
- ・生ゴミに占める「雑かみ」の比率は、平成15年ペースでは約3割と高い。

3. 第2回専門部会の検討内容

(部会における議論の概要と結果)

(主な議論)

<ゴミ分別の啓発について>

- ・取り組みの成果について、数値で表せると効果的である。

<自転車マナーの啓発について>

- ・自転車マナーの徹底は、啓発活動を行っても解決することはないが、なにかやらなければ始まらない。
- ・第2期の専門部会でも議論のあった、自転車事故(歩行者と自転車)の危険性を訴えていくことについて、引き続き取り組んでいきたい。

<共通する議論>

- ・まず小学生に教えて、そこから親へと伝えるのが効果的ではないか。
- ・町内会を対象に啓発活動を行った場合、町内会組織の立ち上がらない大規模マンションには伝わらない。

3. 第2回専門部会の検討内容

(部会における議論の概要と結果)



(議論の結果)

- ▶ 当面は、次の事項について取り組むことと決定した。
 - ・ ゴミ分別の啓発 来年度から始まるミックスペーパー回収の全市展開とも関連し、区民のリサイクル意識を高めていく
 - ・ 自転車マナーの啓発

